



一般社団法人
日中文化振興事業団 代表理事

胡 金定

Ko Kintei

日中友好をさらに 強固にしていきたい

ご来場の皆様、日頃より当事業団への格別のご協力、ご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

当事業団の前身は2013年9月に発足した任意団体「老子会」でした。「老子会」では月一回で6年間の歳月をかけて『老子道德経』（上下81章）を読了しました。2019年9月、新たに「一般社団法人日中文化振興事業団」という名称で法人登録を行いました。現在でも月一回第四土曜日定期講座『莊子』を勉強し続けております。

当事業団は日中両国の友好交流を促進して、恒久的な友好関係を保つ目標を掲げて設立しました。活動として、日中文化交流を中心に、定期学習講座、講演会、交流会、イベント、日中友好コンサート、中国からの訪日団や個人との交流、他の友好団体と提携して中国を理解する講座の実施、年に一回の友好訪中団の企画と実施、日本国内江

戸時代の藩校の魅力を堪能する旅行を企画して実行するなど幅広く日本と中国の人的な交流や日中友好交流事業を行っております。

今年のコンサートでは日本でも活動が展開されている独立学者、中国各地にある「十翼書院」山長（学院長）である米鴻賓先生をお迎えして、最新刊『邵雍（邵康節）』の日本語版出版披露会も行うことにしました。邵雍（邵康節）という人物は中国北宋時代におけるもっとも偉大な哲学者です。江戸時代以降、邵雍の『皇極經世書』、『梅花心易』など書籍が、日本で多数出版されています。邵雍の哲学思想は未来を予見し、未来に対して適切に備えることが最高の知恵です。

世界平和の中でも特に日中平和友好は最も大事です。当事業団は民間団体として、より多様な多彩な民間交流を積極的に推進し、両国民の相互理解と友好的

感情を増進するために引き続き貢献して参ります。

今後、当事業団は日中文化の啓蒙と普及、定期学習講座、講演会、研修会、イベント、コンサート、人的交流、友好訪中団の企画、さらには地方自治体と手を携えて取り組む日中友好活動の展開、日中友好団体の連携強化、民間の日中友好の新しいアイデアを提示し、日中友好コンサートの毎年開催などを実践して、皆さまに愛され、日中友好の原動力となる団体をめざして、文化・芸術活動を通じて、ご来場の皆様と共に、少しでも未来社会を明るく、そして希望を見出す為の活動を、共有して、人々の交流と創造の輪を広めて参りたいことを願っております。

結びに、今後とも更なるご支援ご協力を賜ります様、重ねてお願い申し上げます、私のご挨拶と致します。

有難うございました。